

pinchはchance. しぶといも褒め言葉

皆川 智子

弘前大学医学部附属病院助教

2021春、コロナ禍にワクチンという希望の光が差しました。2016年春から私は感染制御センターの一員として職員への4種ワクチン(水痘、麻疹、風疹、ムンプス)プログラムに取り組み、例年のインフルエンザと同様に、新型コロナワクチン接種にも対応しています。

現役の春、弘前大学医学部を受験するも“桜散る”。その後東北大学農学部に進学するも、バブル崩壊後の理系女子就職難に直面、“やはり医師になりたい!”と再入学しました。澤村大輔先生の研究室研修生として皮膚科学講座に配属され、卒後入局しました。専門医・学位取得後、助教として頑張っていたころ、第1子を懐妊、産前5週で退職になりました。夫の実家で育児に専念し、夫の留学に伴い渡米しました。John R. Stanley先生に師事されていた山上淳先生のご高配でPennsylvania大学皮膚病理部のRosalie Elenitsas先生のもとで研修できました。橋本隆先生が日ごろからいっておられるように“pinchはchance”になりました。

退職者は育児休業給付資格がないため、帰国後ハローワークに通い、失業給付を受給しました。息子が1歳半ごろに医員として復職しました。保育園+託児費で大学からの薄給は消え、motivationも低下する中、2011年より東部支部学術大会のM&M相談会で適切なmentoringを受け、医局の先生方のご配慮で、週3→週4→週5と勤務日を増やし、2013年1月の第2子出産後も、生後10週の娘を院内のひろだい保育園に預けて4月1日付で復職できました。澤村先生や青森県女医会のご尽力で、2016年より助教(病院長枠)として、午前は皮膚科、午後は検査部と感染制御センターに勤務しています。産業医、ICD、検査管理医の資格を生かし、男女共同参画や再生医療委員を務めつつ、大学で診療や臨床研究を続けて



おり“しぶとい”といわれますが、多田弥生先生から“しぶといも褒め言葉”と拝聴し、嬉しくなりました。

趣味は漢方と電顕です。電顕で白黒画像をじっとみながらひたすら探すのは、砂漠の中での宝物探しのようですが、“皮膚かたち(研究学会)に出せるかも！”と思った画像は、山田七子先生にご相談しています。青森と鳥取が画像と電話でreal timeにつながります。運動方程式 $F=ma$ で「F」は力、「m」は物体の質量、「a」は加速度ですが、荷を軽くしても、加速度が大きいほど力は大きくなります。運動以外にも物事を動かすときにも応用できます。電顕は大きな価値がありますが、私は力不足なので“皮膚かたち”の先生方にadviceいただき、免疫電顕は解剖学講座にお願いして「m」を小さくし、20年来お世話になっている宮本茂技師と透過&走査型電顕を細々と継続しています。

研究、診療、育児等すべてに大きなエネルギーを常に傾け続けることはできませんが、周囲のsupportがあれば継続可能なことがあるかもしれません。挫折だらけの私の経験が、踏み出すことをためらっているとき、困難にぶつかって心が折れかけているとき、一助となれば幸いです。